

極地雪氷分科会の役員任期についてはこれまで 2 年間という任期は決まっていたが、任期の始まりと終わりの日時が明確に決まっていなかった。そこで、任期開始日は選出された総会日の翌日と新たに決め、その規定を極地雪氷分科会の規

約 12 条に書き加える事とした(規約は上記の HP を参照の事)。

(北見工業大学 亀田貴雄)

(2010 年 11 月 16 日受付)

2010 年度気象水文分科会報告

分科会総会

日 時：2010 年 9 月 27 日 (月) 19:30~20:00

会 場：東京エレクトロンホール宮城 会議室 401

報告事項

1. 昨年の活動(2009 年雪氷研究大会時の衛星観測分科会との合同セッション)について報告があった。
2. 2010 年日本地球惑星科学連合大会の関連セッション「雪氷圏と気候」と連携して分科会から話題提供者の推薦を行った旨、報告があった。
3. 昨年度会計報告、会計および活動についての監査報告が行われた。
4. 本総会および 2010 年合同セッションの『雪氷』掲載を予定している旨、報告があった。

審議事項

1. 今年度任期満了に伴う分科会会長の交代については、さらに 1 期 2 年を現会長の兒玉裕二氏(北大低温研)に引き続きお願いすることとすることで参加会員の合意をみた。
2. 幹事長の交代について審議がなされ、分科会長より次期幹事長として鈴木和良氏(JAM-STECC)の推挙(本人内諾済み)があり、満場一致で承認された。
3. 他の分科会との合同セッションについて、
 - ・目的意識が必ずしも明確ではない合同セッションを慣習的に行うのでは、分科会としてのアイデンティティが保てない。
 - ・まず、取り上げるべきテーマについて分科会でよく検討し、確かなコンセプトを決定した上で、「必要に応じ」研究セッションの合同開催をすべきである。

などの厳しい意見が会員から指摘され、次期

分科会事務局へ申し送りの上、研究セッションのテーマ選定および合同セッションのあり方について、引き続き検討することとした。

研究セッション

日 時：2010 年 9 月 27 日 (月) 18:00~19:30

会 場：東京エレクトロンホール宮城 会議室 401

昨々年度、昨年度に引き続き水文気象分科会と衛星観測分科会による合同セッションを、「雪氷圏研究のための衛星観測・モデルに基づいた長期間データセットとその周辺」と題して行った。

まず、寒冷圏気候変動の研究を行う上で必須かつ有用なデータセットやそれに見る気候変動の特徴的な話題、寒冷圏の様々なデータを統合的に扱うデータアーカイブプロジェクトについての紹介が行われた。続いて、寒冷圏気候変動の象徴的な現象といえる北極海における海水変動について最新の手法的研究の紹介 2 件(いずれも衛星観測分科会からの話題提供)があった。これら合計 4 件の話題提供後、アーカイブプロジェクトや最新の海水研究について質疑・議論が交わされた。参加者は、両分科会合計で 31 名であった(写真 1)。



写真 1 セッションの様子

話題提供では、力石國男氏（弘前大学理工学研究科）より、「衛星観測データの解析による地球環境変動の研究」として、NSIDC Notes や NCEP/NCAR の再解析データ、ワイオミング大学配信の高層気象データ、気象庁の過去データなどの定番情報リソースについて紹介・レビューいただいた他、いわゆる北極振動（AO）に見られるアーリューション低気圧とアイスランド低気圧のシーソー関係と海水勢力および雪の多寡や空間分布パターンの相関、さらに高緯度圏の気温上昇と雪氷圏アルベドの関連についての解説をいただいた。次に、矢吹裕伯氏（JAMSTEC）からは、「寒冷圏データアーカイブプロジェクトについて」と題して、国で推進中のデータ統合・解析システム（DIAS）の中核的な役割を担うべく海洋研究開発機構で進めているデータアーカイブプロジェクトについて紹介があり、その企画立案の背景（例えば、平成 23 年度科学技術アクションプランにお

ける目標では「2020 年までに公費による地球観測データの 90%以上を統合」）の他、試験公開ページやデータフォーマット等、すでに閲覧可能ないくつかのプロダクツ（シベリア・モンゴルの水文気象データなど）についての紹介があった。この他、衛星観測分科会からは吉川真由子氏（千葉大院）より「マイクロ波データを用いた海氷上積雪深推定に関する研究」、柴田啓貴氏（北見工大院）より「衛星データによる海水変動モニタリングとその応用」と題し、話題提供いただいた。

質疑では、フロアよりデータアーカイブプロジェクトにおける「登録や権利（権利移譲やミラーリングの問題）などについての様々な制限」「データ形式の問題」について活発な議論が交わされた他、北極海における海水アウトルックの技術的な問題について情報交換が行われた。

（秋田大学教育文化学部 地学研究室 本谷 研）
（2010 年 10 月 27 日受付）